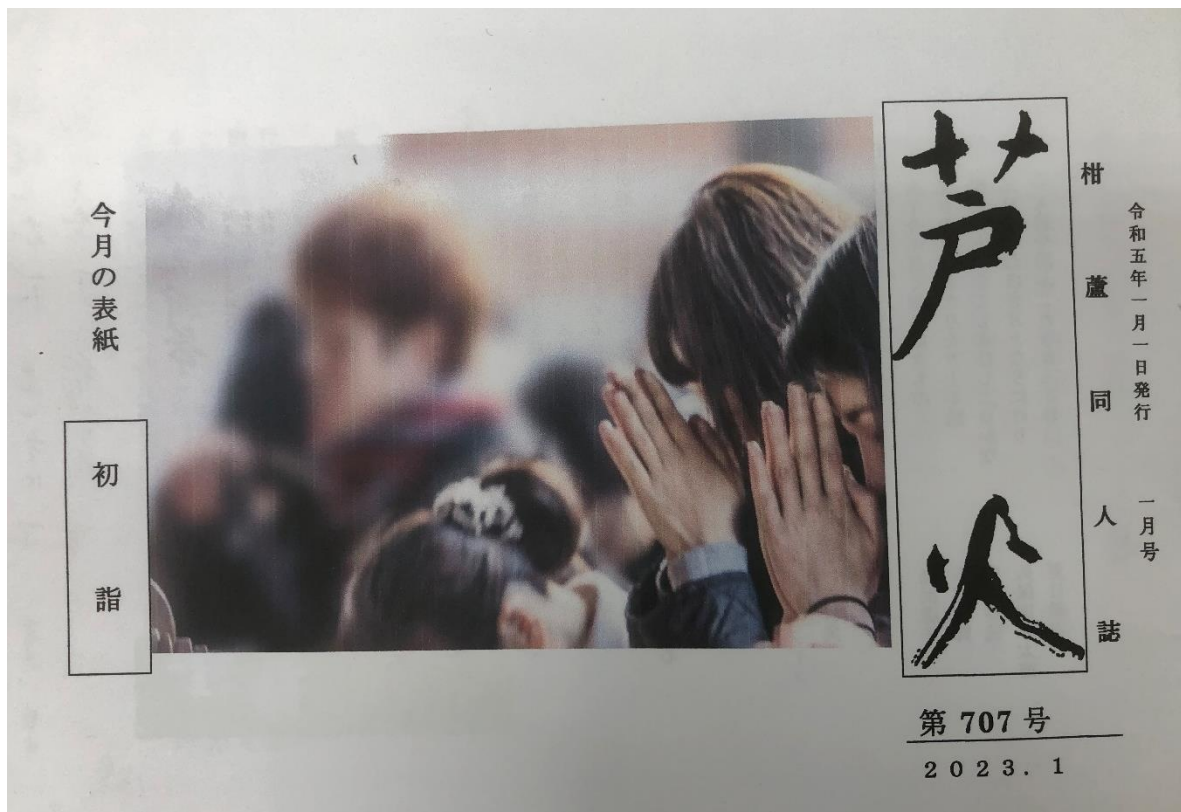


俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第707号（一月号）表紙

- ・新年の季語：「初詣」（はつもうで）（新年・生活）
- ・来月号（二月号）の兼題です。



ご存知のように、新年のはじめに社寺へ参詣し、一年の息災を祈願することですが、元々は、産土詣（うぶすなもうで、うぶすなまいり）や恵方詣（えほうもうで、えほうまいり）から始まった行事のようです。

今では日ごろ信仰する社寺や著名な社寺に詣でることが多く、特に多くの人出で賑わう著名な社寺の様子は毎年のようにTV等で報じられていますね。

季語「初詣」を詠んだ有名俳人の句として以下のようなものがあります。

- ・日本がここに集まる初詣／山口誓子
- ・御手洗の杓の柄青し初詣／杉田久女
- ・えりあしのましろき妻と初詣／日野草城
- ・神の名の長きは読めず初詣／阿波野青畝
- ・一年の計まだ立たず初詣／桂信子
- ・しやりしやりと巫女の鈴鳴り初詣／森澄雄
- ・種子明かす手品師も居し初詣／竹下しづの女
- ・仲見世はあとの楽しみ初詣／今井つる女

- ・願ぎ事はもとより一つ初詣／高浜虚子
- ・初詣一度もせずに老いにけり／山田みづえ
- ・初詣漣づくし巖島／中村草田男
- ・母としてねぎこと多し初詣／阿部みどり女

☆前月出句の中の高得点句（5点以上および4点句）

- ・706号に出句された17名の119句のなかから互選で高得点を獲得した句です。

<5点以上>

- ・山頂の小屋の満天星冴ゆる／恭行 . . . 6点
- ・大根引く耕地乏しき隠れ里／恵吾 . . . 6点
- ・赤牛の目に山の影冬近し／勝 . . . 5点
- ・苔纏ふ水掛不動冬ぬくし／恵吾 . . . 5点
- ・燈明の揺れて十夜の粥啜る／穂心 . . . 5点

<4点句（惜しい！もう少しで5点）>

- ・独り居に慣れたる頃や長き夜／善富
- ・来し方に悔いは残らじ木葉髪／温州
- ・一枚の紅葉はらりと封書から／要
- ・谷底に寒を閉じ込め祖谷の里／史浩
- ・温め酒謹巖居士のほぐれ出し／緑地
- ・断捨離の進まぬままに日短／勝

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の18名
- ・昭和38年（1963年）結成 . . . 約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）
メールアドレス：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先；
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）
メールアドレス：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）
メールアドレス：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）